『國民新報』1939年9月24日

[主張]　朝鮮青年と信念

　はでものであるが、、などのにいてにりである。これ、などのにいてをするである。が日本にいてものをてのびののためににをすことゝなつた。にける日本やなどでもくされるところがあつたことゝふ。

　は日本にさることをたないが、がやうやく日本にしたのからてものるをるであらう。そのるとふのはとりもさずしくにはつたとふことである。このにこそのとにがするのである。

　がしばらくにしてたとふことはではあるが、うべくもないであつて、つてのくはかゝるのにつたとられるがないでもない。が一には日本のなりとふにしたのは、ありにへばであり、もつとにへばが一をしてからであるとふべきである。であるからのにはをしかとしつゝも、それをではすのにだかのさ[、]きまりさをずるもないでもなく、一にはやのしがすつかりにかないもないではない。このためにくべきにいてながらも、一のさをせてるのではないかとふ。にいてり、ましてかゝるのにたりたる、にのやひるべきであるまいか。

　のはらくやのにするやや、そしてのにのをてしなくてはならないところのなさやきまりさをばかなぐりて『は日本なり』のいにきる一をく踏み出さなくてはならない。これこそはにとつて一にして一なるであるからである。のつべきにして一なるは、にしてひまつると、日本にするでなくてはならない。そのてはにし、よりしたるものでなくてはならない。